

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2010年度学校自己評価」を報告するものです。

自己評価は次の13領域（部署）ごとに実施した。

- ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
 - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
- 評価法
- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
 - ・年度末に、実践内容について評価した。
 - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
- 改善・向上策
- ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

中学1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「よく見る、よく聞く、よく考える」という目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1、オリエンテーションキャンプ、学年集会、各クラスでのHR等の機会に、口頭で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行った。 2、学年の掲示板や教室にこの目標を掲げて、常に意識するようにした。	B	よく見、よく聞いているようで、聞けていない生徒がまだまだ多い。今後も粘り強く働きかけていく必要がある。 時に教師側は、生徒がしっかり聞く体制になるまで、毅然として待つ必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1、教師間の情報交換を密にし、共通の理解を持ち生徒指導にあたるよう心がけた。 2、クラスによって指導に違いが出ないように、基準を決めて指導にあたった。	A	学年団での情報交換や共通理解については、よくできていたと思う。 生徒指導は、生徒と教師の我慢比べである。今後も粘り強い指導が必要である。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1、学習のとりくみの冊子を活用した。 2、授業の準備をきっちりとさせ、授業を受ける姿勢を習慣づけさせた。 3、宿題や提出物など、すべきことをきちんとこなすことを促した。 4、学年目標の「よく見る・聞く・考える」の実践を徹底させた。 5、学習方法が分からず、成績不振の生徒に対して、担任の面談や声かけ、少人数での補習なども行った。	B	学年の後半には、理解力や学習意欲に差が出てきた。理解力のある生徒への声かけも忘れないように注意を払いながら、理解力に乏しい生徒への働きかけを今後も続けていく必要がある。
総合学習	1、地域に関する学習 2、進路についての学習 3、マナーの学習	1、自分が生活する地域について関心を持ち、知る努力をさせる。 2、現在の自分を見つめ、松蔭での今後の生活について考えさせる。 3、小笠原礼法を学び、基本的なマナーを身につけさせる。	1、夏休みの宿題として「兵庫の匠の仕事調べ」の作成を行い、自分の知らないことをあらたに調べ、まとめさせた。また、夏休みの「丹戸村マップ」を班で協力して作成させた。秋の校外学習の「篠山レポート」の作成では、フィールドワークを通して、地域をまとめる作業を各自行わせた。優秀作については、表彰やクラス前の掲示板に展示するなどした。 2、「未来予想図」「進路ライブ」を通して、自己を振り返り、「中学2年生の決意表明」をさせ、来年度の学校生活へのモチベーションを高めた。 3、各クラス7回の講義および実習を行い、学年末には「復習テスト」を行い、知識の定着を確認する作業を担当とともに行った。	A	1、壁新聞形式の発表は、大変創意工夫の見られるものも多く、よく頑張っていた。 2、自分の将来についてよく考え、取り組む姿勢が見られた。 3、取り組みの進め方が、日程的な面から、クラスによって違いが出るため、共通の意識を持つことが困難であった。その反面、先に行ったクラスなどから、事前に情報を得ることもできた。	
行事	1、オリエンテーションキャンプ 2、丹戸キャンプ 3、春の遠足、秋の校外学習	1、松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。 2、自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 3、自然に親しむ。友人と交流を深める。	1、友だち作りと先生との交流を図るため、各種ゲームを行い、また、多くの先生方の協力の下、その機会をつくった。 2、リーダー（卒業生）の協力の下、集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えるようにした。また、友だちと協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうよう、その機会を用意した。 3、春の遠足は雨天のため中止。秋の校外学習では、グループでコースを考え、力を合わせて調査・散策をすることで、協力することの大切さを知り、互いの信頼感を高めることを促した。	A	1、生徒同士の距離が縮まり、入学式後の学校生活をリラックスして迎えることができていた。しかしその反面で、緊張感がなくなってしまっているように感じる場面も見られた。 2、先輩の話に耳を傾け、しっかりと自分の今とこれからの振り返りよい機会となった。中学2年生への決意表明を書いてもらったが、その決意が現実となるよう、学校生活の中で、教師も生徒に関わっていく必要がある。 3、新たな場所の検討も必要ではないか。	

中学2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「怒」を、常に心がけるようにさせる。 中2独自の目標として、「授業の準備をきちんとしよう。」という目標も追加する。	1、学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2、特に英語、数学のグレード授業がスムーズに進行するように、生徒に呼びかけ、学年の教師が廊下に立って注意した。	B	常に声かけをしていかなければ、なかなか徹底はむずかしい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。 年度初めに方針の確認をする。	1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。	A	ほぼ達成できた。 職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめようとした。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1、個人面談などで、各自の学習状況を把握し、改善点などの指導をした。 2、2学期には、「授業態度に関するアンケート」を、教科担当者全員に実施し、問題点を明らかにしたり、指導が必要な生徒の面談をしたり、クラス全体に問題提起をしたりした。必要な場合は、保護者にも連絡して理解と協力を求めた。その後、学年の教師が適宜授業参観もした。 3、定期考査以外に5教科の実力テストを、学期ごとに実施した。	B	学校生活に慣れてきた生徒の緊張感を維持させるのは、なかなか難しいので、さまざまな方法でアプローチする必要がある。
	総合学習	「いのち」の学習	「生」「死」「生き方」の3つのキーワードに基づいて「いのち」について深く考えさせる。	1、1学期は「生」、2学期は「死」、3学期は「生き方」というテーマを設定して取り組んだ。 2、映画鑑賞、妊婦体験、グループワークや校外学習などを通して、多角的な見方や考え方ができるようにした。 3、感想文や、レポート、年表作成などの課題に取り組むように促した。		
	学年行事	海洋キャンプ	1、協調性を育てる。 2、海洋スポーツの楽しさを知る。 3、自然のすばらしさを知り、自然環境の大切さを学ぶ。	1、団体生活での、けじめの大切さや、時間厳守の必要性を特に強調して指導した。 2、海洋スポーツでは、リーダーの指導をしっかりと聞いて、約束を守らなければ危険であること、他の人に迷惑がかかることなどを伝えた。	A	天候に恵まれ、プログラムの見学者もほとんどなく、大きなけがや病気もなく実施できた。
		遠足（5月）	自然に親しむ。友人と交流を深める。	学校から上野道を通り、摩耶山頂（掬星台）まで登り、帰りは青谷道を通って学校へ。		天候が悪く実施できなかった。
		校外学習（10月）	自然に親しむ。友人と交流を深める。	王子公園から淡路島へ。花さじき、野鳥断層、淡路島牧場を見学。	A	ほぼ予定通り実施できた。
	校外学習（2月）	理科の知識を深める。	姫路セントラルパークと姫路科学館を見学し、動物を観察したり、プラネタリウムを観覧したり、科学展示を見学したりした。	B	楽しみながら見学できた。 見学のマナーについては、もう少し指導が必要だった。	

中学3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「自分から進んであいさつをしよう!」「人の話はしっかり聴こう」という学年目標(は中1、中2から継続)を設定した理由を理解させ、具体的に実践させる。	1. 学年集会、各クラスでの朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促した。 2. 教員から率先してあいさつをするよう心がけた。	B	まだまだ、自然にあいさつができるとは言えない生徒が多い。周囲の大人(教員および保護者)から率先してあいさつし、働きかけることを、根気強く続けたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。	1. 年度当初に「学年の教員全員で学年の生徒全員を指導しているという意識を持ち、学校・学年の基準を守りながら教員全員で生徒の指導に当たる」という方針を明確にした。 2. 朝礼、清掃、自習の際に(必要なら終礼時も)学年主任や補佐も各教室へ行き、担任のサポートをした。 3. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話した。 4. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合った。 5. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らなかった。 6. 「ハンドブック」の活用。	A	指導の必要な場面は数知れずあるが、「学年の教員が一丸となって」という目標は、今年度も達せられたと思う。今後もこの方針のもとでの指導を、継続して行っていきたい。
		保護者との連携	学校と保護者、保護者間の連携を深める。	1. 学年集会等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ「学校と家庭が深く関わり合いながら生徒たちを支えていこう」と訴え、実践した。 2. 気になることは連絡し合える体制を作り、できるだけ多くの機会を見つけて保護者と話すようにした。 3. クラス懇親会、保護者面談を有効に活用した。	B	十分に努力はしたと言えるので「A」と評価したいが、今年度は動きが後手に回った感があるので「B」とする。保護者の方々と話し合うことで理解も深まるが、一方で我々にも問題の深さがわかり長期的な取り組みを覚悟する場面も多々あった。とにかく今後もどんどん機会を見つけて、保護者の方々と語り合っていきたい。
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学3年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。	1. 集中して授業を受けるよう指導した。 2. 宿題等は期限までにしっかりやる学習習慣をつけさせるよう、心がけた。 3. 「学習のとりくみ」の活用。 4. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行った。 5. 各教科担当者との連携を密にし、学年団の教員の一丸となった指導を心がけた。	B	授業を集中して受けさせるための工夫、自宅学習の習慣をつけさせるための工夫が、もっと必要である。保護者の協力ももっと得たい。
	総合学習	平和学習	映画鑑賞、戦争体験者へのインタビュー、見学などを通じて、平和について考える力を育てる。	下記1～5の活動に意欲的に取り組めるよう促す。 1. 戦争や平和に関する映画の鑑賞。 2. 戦争体験を聴く。 3. 壁新聞の作成。 4. 「立命館平和ミュージアム」見学(秋の校外学習) 5. 「平和への提言」の作成、発表。	A	左記の活動を通じ、生徒一人一人が「平和」について真摯に向き合えたことを評価したい。表現の仕方に稚拙な部分はあるがそれを補う指導が教師側に必要だと考える。
学年行事	スキー修学旅行(戸隠) (春の遠足は悪天候のため中止。)	スキー実習を通じて、健康な身体・体力を作り、一生懸命頑張る心や、お互いに励まし合い助け合う心を育てる。 雄大な信州の自然を体験する。 寝食をともにする生活を通じて、新しい友を見つけ、思いやりの心や譲り合う心を育てる。	・部屋割りなどを通じ協調性を学んだ。 ・スキー実習を通じ、戸隠高原の雄大な自然にふれ、自然の豊かさ、厳しさを感じることができた。また、スキーに必要な体力を身につけ、スキーを楽しむ雪山を満喫することができた。 ・各宿舎で寝食を共にすることで、友人の新しい部分を発見することができた。	A	事前準備にもう少し時間をさけるとよい。特に現地での流れ(見学者の扱いなど)の共通理解。 また、現地での必要な連絡を朝の教師ミーティング以外に、メールで連絡ができたのはよかったと感じる。 交通事情で帰神が遅れることを想定してメルポコの取り扱いについても事前打ち合わせしておくともスムーズに動けると感じる。	

高校1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標「目標に向けて自分を高めよう」を理解させ具体的に実践させる。	・学年の目標を生徒に伝え、日常の様々な場面で具体的に実践させるように伝えた。	B	総合の時間だけに終わらず、授業や朝終礼などのなかで常にわかりやすく伝えていく必要がある。
	生活指導	継続的指導	学校の規定を遵守させる。	・学年教師が日常的にあきらめることなく注意を行い、指導をやり続けた。 ・遅刻をしないなど、基本的な生活習慣がつくように指導した。	B	風紀面の指導など、教師が継続的に指導する。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の向上	・高校生としての学習習慣の定着をはかる。 ・生徒の個々のレベルに応じて指導する。	・集中して授業を受けるように指導した。 ・定期考査後などに個人面談を行い、特に学習意欲の薄れてきた生徒には注意し励ました。 ・夏休みに進学補習を実施した。 ・英語・数学の習熟度別授業を実施した。 ・「英語特別クラス」を設置した。	B	定期考査だけでなく、実力考査へ向けても学習する習慣、さらに考査後に復習する習慣も身につけさせる。
	総合学習	進路学習	自分にふさわしい、自分の進むべき道を選択できるように、いろいろな方面からアプローチする。	・学期ごとに次のようなテーマにそった学習を行った。 「自己理解」 「学問研究」 「将来を考える」 ・教育実習生など多くの人から話を聞き、進路を考える機会を増やした。 ・大学の先生の授業を受けた。 ・1年間の学習のまとめとして、自分の進路に関する考えをまとめ、クラスで発表した。	A	教室でおこなう作業や調べ学習について内容について検討する。 生徒の希望をもとに興味ある分野を中心に取組んだが、それだけではなく、興味がある分野以外の話を聞いたり、体験したりするなど、広く興味をもたせる。
	行事	平和学習・広島	中3の総合学習から取り組んできた、平和についての考えをまとめる。	・広島へ行き、ガイドの話聞きながら、原爆資料館や様々な慰霊碑を見学した。 ・レポートをまとめ、冊子を作成した。	A	社会科などとも連携し、さらに事前学習をおこなう。
		校外学習・京都	中3の総合学習から取り組んできた、平和についての考えをまとめる。	・昨年実施できなかった立命館大学国際平和ミュージアムを見学した。 ・レポートをまとめ、冊子を作成した。	A	行程全体を見直し、もう少し長い時間、ミュージアムを見学する時間を確保する。
		校外学習・奈良	・世界遺産めぐり、奈良を散策する。 ・友人との親交を深める。	グループに分かれ、希望のコースを決定し、散策した。	A	希望のコースを決定する際に、事前学習にもっと時間を使う。

高校2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年の目標 「自分の目標に向かって努力しよう」を理解させ具体的に実践させる。	<ul style="list-style-type: none"> 特に進路について生徒達が自分の目標を設定し、その進路実現に向けて日々努力するように伝える。 日常の生徒との関わりの中で、教師が常に生徒の目標を念頭において指導にあたる。 	B	目標と現実の力とのギャップに悩んでいる生徒に対して、次の目標を設定させるのか、このまま頑張らせるのかを、生徒とよく話し合っって指導できるようにしたい。
	生活指導	継続的指導	学校の規定を遵守させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学年教師が日常的にあきらめることなく注意を行い、指導をし続ける。 特に遅刻をしないように指導する。 	B	個々の生徒やクラスに応じて常に粘り強く指導を続けることが大切である。
	学習指導	学力をつける	生徒の個々のレベルに応じて指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望によるコース別のクラス編成 英語の習熟度別授業の実施 夏休みの進学補習の実施 年3回の実力考査を実施 希望者を対象に実力考査やマーク式テストを実施 	B	実力考査受験後の振り返りを行い、実力問題の復習をさせるようにしていきたい。
		進路学習	自分の進むべき進路や、来年度のコースを決定し、自分の進路に向けて努力できるように、いろいろな方面からアプローチする。	<ul style="list-style-type: none"> 入試制度について勉強する機会を設ける。 大学模擬授業を実施し、大学の先生方の授業を受ける。 担任・生徒および保護者との面談を実施し、自分の進路について考える。 4月の学年集会、7月の選択説明会において、保護者と共に進路について考える。 	B	<p>個々の興味に応じたプログラムを用意できないか検討する。</p> <p>大学模擬授業の代わりに職業ガイダンスを実施したが、生徒の反応も良く有意義であった。</p>
	行事	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で、東北地方への知識を深め、旅行への興味を持たせる。 現地では、出来るだけ多くのものを見たり、聞いたり、体験できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックの作成を通して、東北への興味を持たせる。 ふるさと村での手作り体験などをおこなったり、現地で多くの自然や文化に触れる。 	A	ガイドブックを1学期中に完成させたが、それをより活かす方法を考えていきたい。
		春の遠足	<ul style="list-style-type: none"> 六甲山を登山し、神戸の自然に触れる。 友人との親交を深める。 	雨天のため中止となり実施できなかった。		

高校3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学習指導	進路の研究と決定	自分の適性と関心に合った進路をさがし、受験にむけて準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 4月の学年集会で、保護者とともに進路のガイダンスをする。 4月に第1回、7月に第2回の進路調査を実施する。 4月に第1回、6月に第2回、9月に第3回の実力テストを実施する。 6月に希望者対象の小論文テストを実施する。 担任との個人面談を実施する。 5月から7月にかけて、各大学の入試担当者が来校し、説明会を実施する。 卒業生が進路アドバイザーとして来校し、個人的な体験談を聞く機会をもつ。 6月下旬に具体的な進路ガイダンスをする。 夏休みには、担任と生徒、保護者との三者面談を実施する。 夏休みと3学期に進学補習を実施する。 進路に関する情報を「進路ストーリー」というプリントにして配布する。 	A	<p>コースにより進路希望、入試形態が異なるため、コースの状況の応じた進路指導が必要である。</p> <p>進路指導部との綿密な連携をしながら、担任も情報を整理し的確な指導にあたる。</p>
		チャレプロ(チャレンジソーシャルデザインプロジェクト)に参加する。	自分の興味や関心に基づき体験学習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の学習では体験できないプロジェクトを設定し、自主的な取り組みを促す。 	A	<p>生徒の意見を生かしながらも内容を整理し、全体計画を事前に綿密に立てる。</p> <p>参加生徒の感想や意見を反映させる</p>
	生活指導	決められたルールを守る	学年の生徒全員がきちんとルールを守るように指導する	<ul style="list-style-type: none"> 担任が状況に応じて指導した。場合によっては、保護者とも話をした。 	B	教師全員が、何度も注意する。
	総合学習	論文を書く。	自分でテーマをみつけ、1200～2000字の論文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は課題プリントを完成させながら、論文の土台を作る。 図書館で情報収集のオリエンテーションを受ける。 1学期はテーマを決定するきっかけ作りとして講演をきく。 	B	<p>テーマ決定にあたって、刺激を与え問題意識が持てるよう、多方面で活動をしている人の話を聞く機会を持つ。</p> <p>クラスの状況に合った柔軟なまとめ方に見直す。</p>
行事	春の遠足	コースの適性を検討し、安全に実行できるように計画する。	<ul style="list-style-type: none"> 雨天のため中止 			

教務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語・数学教室の開設などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	B	中・高の新学習指導要領に合うように教育課程の一部を改正する。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また多くの選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。また長期休暇には進学補習を実施する。	A	高校の選択科目成立の原則を見直す。また、選択科目の配置及び、精選化をおこなう。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに実施する。また適宜成績を数値化して努力の成果を確認させる。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やトイックリッジ・トイック・漢字検定などを実施する。	B	実力考査や模擬試験実施後の学習指導を充実させる。 評価方法について再確認をすすめる。 特別支援教育について、評価・科目履修・単位修得の問題点を確認し、改善していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合学習において自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2の修学旅行、高1の広島平和学習、高3のチャレンジプログラムの挑戦など、校外でさまざまな体験・事前学習をする。	A	中学においては積極的に校外施設の利用を考える。 保護者・卒業生・外部の人々の協力を求める。
教務部	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	「教員研修委員会」を発足させ、教務の研修係2名がその委員として参加した。中1と中2各1クラスを研究指定学級として、「生徒の学力伸長のための教員研修」をおこない、その担任の実践の中間報告を聞いた。 教科ごとに新任教員に対する研修をおこなった。	A	教員研修委員会での活動をすすめる。 新任教師の指導は所属の学年主任がおこなう。 外部研修会にも積極的に参加する。
	国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事をおこない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	日中21世紀交流事業に参加し、20名の中国人高校生の受け入れを行った。2学期には、留学団体を通して、アメリカ人生徒を受け入れた。中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターススクールへ短期語学留学を実施した。その事前学習としてニュージーランドの歴史・文化を学んだ。姉妹校である韓国・信明高校の生徒の受け入れをし、授業参加、ホームステイなどを行った。その他、アメリカ人大学生との短期交流を行った。	A	信明高校との姉妹校関係をさらに深める。セント・ピーターススクールへの派遣も引き続き行い、友好関係を継続する。
	芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定する。	2010年度は音楽鑑賞の年で、大阪市音楽団の吹奏楽を鑑賞した。事前にパンフレットを配布して、曲目の紹介・解説や吹奏楽団の楽器構成などについて説明した。 2011年度は演劇鑑賞の年であるが、それに向けて「わらび座」の「響」と打ち合わせをすすめている。	A	中1の「わくわくオーケストラ」のような、外部の芸術鑑賞の機会を積極的に利用し、学年単位の取り組みもすすめていく。
	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上のための学校行事として、体育祭、球技大会、春の遠足（登山）、中2海洋キャンプ、中3スキー修学旅行、冬休みスキーキャンプを設定する。自主性向上のため、中1キャンプ2回、高1広島平和学習、高2修学旅行等を実施する。 その他の学校行事として、文化祭、バザーなどを設定する。	B	定期考査・学校行事の配列をよりよい形になるように考える。

生徒部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、頭髪違反者の生徒を生徒部で注意し指導する。	B	頭髪違反者は減少傾向であるが、特定の生徒を何度も指導した。制服を正しく着用していない生徒が多い。特に冬服時は、朝終礼時及び校門指導を含め、日常の指導を継続していかなければならない。3学期より頭髪について、「長い髪はくるように心がける」よう朝終礼時に指導することから始めてもらうようになる。
		登下校のマナー	交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。	関係機関と連携し、登校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的実施する。	B	街頭補導での指導した生徒数は減少している。しかし、マナーに関する苦情は多く、重点的な補導活動が必要である。
		紛失・盗難の撲滅	教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	紛失・盗難件数はそれほど多くないが、貴重品管理に関しては、徹底した指導が望まれる。移動教室時の教室の施錠は特に注意を必要とする。生徒だけに任せず校内巡回など徹底する必要もあり。今年度は校内の器物破損やいたずらがみられた。盗難・紛失を未然に防ぐだけでなく校内を定期的に巡回する必要がある。
美化指導	校内美化・清掃に努める。	大掃除を利用し、隅々まで掃除を徹底する。トイレ掃除の仕方を徹底する。	大掃除の際、普段できない雑巾がけや窓拭きなどを徹底する。学校リニューアルに伴い、トイレが新しくなったので、掃除の仕方を指導し、きれいに保つようにする。	A	このまま綺麗に校内を保てるよう呼びかけをする。また、特別分担の掃除に洗面台を掃除するようにする。	
	ゴミの分別の徹底とリサイクル活動の推進	美化委員が中心となり、リサイクル活動を行う。ペットボトルのゴミの減量化を行う。	美化委員と教員がリサイクル活動を毎週、火曜日と金曜日に行う。ペットボトルのゴミを持ち帰るよう呼びかけを行う。	B	ペットボトルの持ち帰りをもっと生徒にアピールする。	
生徒会活動	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	HPによる活動報告の活性化。エコキャップ運動など、近年取り組み始めた活動の充実。あいさつ運動の拡充。校外清掃活動の回数の増加。	A	あいさつ運動は通年の活動として定着した。エコキャップについても定期的に集計し報告できた。清掃活動に関する広報活動をもう少ししたい。	
	学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく	体育祭運営をよりスムーズに行う。近年、課題となっている仮装行列について改善策を検討する。文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。また、その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	今年度課題としていた仮装行列は、事前指導の成果もありある程度のことのできたと思う。 文化祭では舞台の内容に工夫を凝らすとともに有志の活動にも着手できたことはよかったと感じる。	
	各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す	ゴミの分別を確実に行う 学校環境衛生についての知識関心を深める。 生徒会関係冊子の充実に努める。	B	保健委員が学校環境衛生に関する調査を実施した。各委員会がもう少しリンクして活動できるとより生徒会活動が活性すると考える。	
	防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちでする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	B	1学期の避難訓練は雨天中止、次回からは予備日を設定する。2学期には校舎のリニューアル工事に伴い、新しいマニュアルを作成し、教職員対象の訓練を再度実施した。生徒に連絡する訓練を2学期に、3学期は抜き打ちの訓練を実施した。運動場に出てから点呼までの時間がかかっている。	
	校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・	B	次年度は不審者対応の講習会を実施したい。	

安全教育	める		下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。		
	自転車通学者への安全の意識を高める	自転車通学者に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、対象者に自転車交通安全講習会を行う。自転車に乗ることは、交通被害者にも加害者にもなるということを目覚めさせる。	A	1学期に行った講習会の不参加者に対して、学年と協力し、2学期に全員受講させた。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	B	心肺蘇生法に加え、搬送法の講習を実施した。しかし、例年同じ顔ぶれの参加となっている。一度過去の参加を調べ、次年度は全教職員の参加を促したい。
性教育	性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生と高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。	B	性教育のあり方を再度検討する。教職員対象に思春期の性についての研修を行いたい。

宗教部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	当番学年への事前連絡 聖書朗読者の名前を確認し、朗読箇所を知らせる作業が遅くなりがちだったが、一応理解された	A	今後、お話をしてくださる方が偏る点を改善し、誰でもお話いただける雰囲気をもっと作っていくようにしたい。
		礼拝リスト当番	礼拝リストを手配し、出来るだけ早くに聖歌番号を決定	今年度は新聖歌集が配布され、少しずつ新しい曲も浸透してきているように思う。	A	新曲なので、浸透するように何度も繰り返し歌わせたい。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で受けることが出来るよう工夫する	礼拝前に聖歌の練習なども行い、黙想など礼拝を始める雰囲気を作った。	B	生徒が礼拝へ積極的に参加できるよう、継続して行う。
特別礼拝の実施	説教者選定	ふさわしい方を選定依頼	いろいろな方面から説教者をお願いして有意義な話をしていただいた。	A	これからも多くの人脈を得られるよう努力を続ける。	
	礼拝リスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブや礼拝リストの方からアプローチをかけた。	A	各方面と連絡を密にとって、これからも継続していく。	
	式次第作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成	各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	よりいっそうの研鑽を続けて行きたい。	
宗教週間の諸行事实施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	キリスト教に関連する本やグッズ、パンの販売を企画した。クリスマスの飾り作りも行った。	A	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、さかんに参加してくれるように。	
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行った。	A	これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。	
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしる荘関連	施設との話を密にし、利用者にも生徒にも共にプラスになるプログラムを考える	年2回の喫茶サービス クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブや生徒会にも協力を要請。	A	積極的に生徒会や有志生徒や茶道部の部員も参加してくれた。	
	真生乳児院関連	施設との話を密にし、利用者にも生徒にも共にプラスになるプログラムを考える	1, 2学期を中心に年2期(12回)の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度は多くの生徒が参加希望をし、年2回の各々の参加日も定員いっぱい状態である	
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として「戦争」ととりあげ描いた『ハートロッカー』と『縞模様のパジャマの少年』を鑑賞した。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触である。今後も啓発を続けて行きたい。	
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『水滴』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続したい。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修として金泰子先生の講演『発達障害のある人の青年期の課題と支援』を11月24日(水)本校体育館大会議室にて開催。教職員の理解を深めた。	A	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養いたい。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たずことが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。また、教会の礼拝やバザーに参加、引率することも企画。	A	参加者が増加してきており、次年度もっと参加を呼びかけたい。	
啓発文書の発行	青谷編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発行した。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めたい。	
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によってキリスト教を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを発行した。年間計9回発行した。	B	行事の時だけでなく定例化を目指し毎月生徒に配布する。	
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に、書道部の協力で作成。教室掲示することができた。	A	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させたい。	
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく	今年はハイチ大地震支援募金、JOC S イラクの子供を救う会、ワールドヴィジョンジャパンに献金し、活動を行った。	A	必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行って行きたい。	

総務部

	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握し、変更があった場合には速やかに変更する。	変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	不良品、修理の必要なものを適宜交換する。	B	教室の机などを定期的に点検する。新規購入に向けて早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることがら（部活動・補修など）を掌握する。	月初めに職員室に「放課後教室利用一覧」を貼りだし、各責任者に記入してもらった。	B	各責任者に書き込みの徹底を促す。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	A	各部署からの報告の把握に努める。校内イントラネットで掌握ができるように努める。
		不良箇所の補修	様々な事柄に職員との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼した。	B	修繕可能かどうかの見極めを適切にする。
	情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時行う。	新職員室を含めた新 PC ネットワークの仕様確定・立ち上げ。立ち上げ後の、各種設定を業者と共に行った。	A	新ネットワークのトラブルを一つずつ消しこむ。セキュリティ面で問題がないか、日常的に検証を行う。
	管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。中央館トイレが改装されたため、清掃用品を一新した。	B	毎週在庫の点検をする。ある程度のまとまった量を購入し、コストダウンを心がける
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の分別ができないか検討する。
	視聴覚	視聴覚備品の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。
	広報	ホームページ（学校の広報）	分かりやすい内容に努める。定期的に更新する。	ニュース、情報をできるだけ早く更新した。情報を見やすくすることを心がけた。	B	リニューアルしたHPをより魅力あるものにしていく。
ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）		訂正ゼロを目指す！！	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	C	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうかその都度確認する	
	学校報（一年間の学校の記録）	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	B	写真や資料も積極的に増やしていきたい。	
	教育の広場（教職員の声）	一年を象徴する声を掲載する。	トピックスを検討し、教職員の原稿の回収に努めた。	B	記事内容が偏らず、読み易い誌面になるように、工夫していく。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。古い資料の整理に努めた。図書館にも依頼し、重要なものの移管を実施した。ビデオテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。資料リストの作成をした。	B	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。	
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者への連絡はできるだけ午前中にした。業者とは連絡を密に取るように努めた。優先順位を付けて、必要な箇所から手を付けていった。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	頻りに故障して修理がしにくいものに関しては定期的なメンテナンスや買い換えなどを推進する。施設管理職員・事務職員と協同して仕事を円滑に進めるよう努める。	
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	B	設営作業がスムーズに行くように式典前の講堂使用について気を配る。	
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTA や同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすることを心がけた。	B	リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。	
	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	必要な場合、メールによる緊急連絡を実施するようになった。	B	送信内容の精査・使用範囲について検討し、効果的な使用ができるようにする。計画的にテストメールを配信する。	

進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部		進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	中学段階での進路指導にも新たな試みをしようとした。	C	総合の時間や、学年内の部の教師の体制充実が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	総合の時間や、学年内の部の教師の体制充実が不可欠。
		進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合での進路学習も8年目となり、生徒の実情に応じる形の内容・プリントに抜本的に改めていった。	B	今年度の生徒の取り組みも踏まえ、次年度も今年度の内容やテキストを生かしたい。
			進路状況について分析を行ない、進学指導に生かす。	進路分析を進路指導に生かすべく努力した。	B	過去のデータと現在の生徒の実力を比べつつ指導していく。
		キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2で職業ガイダンスを行ったが、生徒たちは興味関心を持って取り組んでいた。	B	職業ガイダンスは次年度も継続したい。
			職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせず、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	活動の趣旨を反映して名称を Challenge Social Design Project に変更した。代表をはじめ、明確な分掌を決め、企画会議や戦略会議を実施、自主的な活動がさらに活発に行えるようにした。	A	文部科学省とも連絡を取りながら、社会的にも評価を得て、伝統的なノウハウや協力先を構築しているこの教育活動だけに、今後も充実を図りたい。

入試広報室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	参加により本校受験を決定したという声が例年多数あるので、体験授業内容・クラブ見学・大学での昼食などの一層の充実をはかった。	A	より魅力のある内容とすることを検討する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	A	動員をより増加させるよう広報を充実させる。
	関連事項	クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を経験してもらう。	多数の参加者を得た。講堂の収容力を超え臨時席も設けたので、動線の確保等にやや問題があったが、盛会であった。	B	本校スタッフ（教職員・手伝い生徒）の事前打ち合わせを十分行う。
		思春期母親学講座 ・中学受験セミナー	年度初めての広報イベントとして入試結果を報告すると共に、スクールカウンセラー講演などにより本校が生徒のこころの理解に努めている点を紹介する。	昨年はインフルエンザ流行により中止したので、広報を早い時期からすすめた。	A	
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。グループごとの施設見学も行った。	B	参加者数が予測よりも多数となり、対応方法を今後検討する。
	学外のブース式説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答えたり、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。県下10女子校（小林清心・神戸国際・神戸山手・親和・武庫川大附属・百合・甲子園・園田・夙川及び本校）による「女子教育セッション2010」を学校共催イベントとして企画・実施した。	A	保護者と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。	
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 2、3月に、西宮及び神戸市西区で「灘区三女子校合同説明会（神戸海星・親和）」を3校共催で実施した。	A	特に他校との合同の説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。
		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	A	スムーズな対応・説明を心がける。また担当者がどのような質問にも対応できるようにする。
情報提供	関連事項	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	スクールガイド内容を一部更新し、本校の現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	A	最新かつ的確な情報伝達の媒体とし、学校の魅力を十分伝える。
		DVDなど視聴覚物品	本校生徒の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作製を依頼し好評を得た。	A	より魅力ある映像をつくる。
		中学受験雑誌記事など	本校教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	A	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌記事掲載など	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	本校の教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。

	新聞雑誌広告・看板	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	費用対効果も勘案しつつ雑誌・新聞広告、駅校内看板の作製・業者への依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。
	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。また学校ニュースの掲載にも協力した。	B	総務部ホームページ係と協力しあい、学校の最新情報を発信する。
	ノベルティグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	制服クッキー・ファイル・ハンドタオル等本校独自のグッズを製作した。	A	本校の特色に合致したグッズを製作する。
学 外 教 育 機 関 へ の 広 報	塾訪問(全教員)	塾とのパイプを強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	新入生塾アンケートよりリストを作成し訪問を実施。1名につき1塾～2塾を担当した。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾訪問(入試広報担当)	大手・中堅塾を中心にパイプを深めより多くの塾生に本校受験をすすめてもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾対象説明会	本校の教育内容を説明し、小学生・保護者に本校入学を推薦してもらう。	外部会場・校内会場の2回実施した。	A	本校の教育内容について周知する機会として拡充させる。
	模擬試験会場	受験生・保護者に対して本校をアピールする機会とする。	保護者控え室を設け個別相談会を実施。	B	保護者控え室の利用率を高める方策を考えた。

読書運動委員会

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策	
図書教育	読書指導	全校読書運動	読書習慣をつける	<ul style="list-style-type: none"> ・全校テーマを決め、テーマにそった推薦図書リストを参考に本を選ばせた。 ・各学年で、読書後の課題を設定しとりくんだ。 	B	テーマ設定をさらに工夫する。	
		読書感想文をかく	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科中心で各学年課題図書を決め、感想文をかかせた。原稿用紙 5 枚。 ・校内読書感想文コンクール ・兵庫県私学読書感想文コンクール出品 ・第 4 1 回全校読書運動冊子の配布 ・全校読書感想文コンクール優秀作の感想文などを載せた冊子を配布した。 	B	現在、本校生徒にはいないが、コピペなどからの盗作対策を考えていくことも必要となる。		
		ゴールドカード表彰	1 年間に 5 0 冊以上図書館の本を読んだ生徒を表彰(1 月アセンブリー)賞状ブックカバー	A			
		調べ学習での活用	総合学習の研究に必要な図書を見つけて、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。 ・図書や資料の見つけかたや調べ方、マナーも含めてプリントしたものを作成し、配布するし、積極的な活用ができるようにした。 ・進路学習(高 1) ・大学・学部などの調べ学習に図書館も利用した ・論文を書く際の情報収集と注意点 ・図書館で、司書によるレクチャー(高 3 対象) 	B	<p>総合学習係とさらに綿密な連絡をとり、図書館利用で調べ学習が充実できるようにする。</p> <p>ブックトラックに各学年のテーマにそった書籍を集約した</p> <p>総合学習の時間の図書館利用の方法を考える。(一斉利用はスペース的に無理だが、2 クラスごとに実施した)</p>	
		図書館の活用	図書館利用のルール	・新入生に対して、オリエンテーション 日常の利用でのきめ細かい指導をした	A	オリエンテーションだけでは時間不足気味なので、別の機会をみつける。	
		広報	<ul style="list-style-type: none"> ・はと時計の発行 本の紹介をはじめ、図書館クイズ、各種イベントの案内をした。 ・図書館で絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、クリスマスリースづくり、消しゴムはんこ作りを企画実施した。 ・おひな様展示のため、ボランティア生徒とともに飾り付け 	A A	<p>毎号充実した内容で魅力ある図書館情報をめざす。</p> <p>積極的かつ楽しく活動できる機会をさらにつくりたい</p>		
		司書体験	<ul style="list-style-type: none"> ・高 3 対象 ・チャレンジプログラムの 1 つとして司書体験活動をした。 	A	図書館内部の仕事にふれるよい機会としてとらえている。		
		ブックリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教週間の一環として、不要になった本を持参してもらい売却した利益を寄付。前年度よりも増加した。 	B	この企画を恒例企画として、さらに周知し定着させる		
		選書	選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書教育係と読書運動委員(各学年 1 人)による定期的な選書をした ・格学年担当の教師にも可能な限り選書に加わってもらった。 ・書店へ出向いての選書(全教職員、教育実習生対象)を企画、実施した。(高 3 生 チャレンジプログラムの一環として) ・随時 リクエスト本の審議(教職員、生徒) 	B	幅広い選書をめざし、多くの教職員からのリクエストを知る機会を増やす。